



波 濤

<https://hatoh.net/>

第 6 8 号

発行 放送大学神奈川同窓会

編集委員会

責任者 金田 保男

発行日 2025年1月9日

会員数 594名(2024年10月1日現在)

現在の環境変化と同窓会運営について



神奈川同窓会会長 金田保男
アフターコロナと呼ばれるようになって以来急激な変化が進行しています。コロナ感染症の蔓延と巣籠による ICT 技術の著しい進歩、DX 化、生成 AI の急速な普及(数年前に AI の講義を受けたばかりですが既に実用化)があり、特に AI 技術は功罪をふまえた規範が必要と考えます。

〔物流の2024年問題に端を発した物流費の高騰〕

2024年度のスタートと共に物流費の高騰があり、同窓会活動に必要な「会報」や「総会議案書」の送付の他、別の要因も加わり年間予算は会費納入額を大幅に上回る費用が発生しています。主な要因:①郵便局および宅急便送料の値上げによる。②「総会議案書」の印刷外注化(今までは学習センターの印刷機を借用していましたが撤去され止む無く外注化)③役員で行っていた発送作業(封入作業)は、高齢化に伴い学習センターで作業すること自体困難な方が増え止む無く外注化。これらの費用だけで年会費収入の約2倍の経費が発生し積立額も激減しました。

〔印刷物郵送の縮小廃止の取組と財政立て直し計画〕

既に前号『波濤』第67号および「2024年度活動計画案」でもお願いしておりますが、3年間位の準備期間を設け段階的に印刷物郵送の縮小・廃止に向けた取り組みをいたします。まず2025年度に年会費を現在の1,000円を2,000円に値上げさせて頂きたく計画しています。その後は印刷物郵送の縮小・廃止の内容と共に会費の見直しを検討いたします。

〔2025年度の値上げについて〕

「会費」の改正は「会則」の改定が必要なため、

定期会則改訂(案)が承認されたのち、「払込取扱票」を郵送し、納入して頂く手続きを行います。従って例年「総会議案書」と共に添付していた「払込取扱票」は1か月程遅れてお届けいたします。どうかご協力お願い申し上げます。

〔経過期間中の体制整備〕

- ① ホームページ(以下HPとします)の改善:皆様が利用し易い方法の取り組み。
- ② 新規入会者は、Mail address 全員登録のお願い。
- ③ 現会員の中で、Mail address 登録の無い方は登録をお願いして参ります。(大部分の方は、address を持っても印刷物として郵送されてくるため HP を見る習慣が無いものと思われる)

〔ライブ Web 授業について〕

授業形態も変化しつつあります。Web 会議システム(Zoom)を利用したオンライン授業の利点を生かした新たな授業形態が始まります。面接授業が進化したものですが、学習センターではなく自宅等で PC 等を利用し受講します。この方式によると、科目によっては遠くの学習センターに宿泊して出かける必要がなく、今後急速な拡大が予想されます。

この授業は Zoom 利用で行われますので、Zoom に慣れておく必要があり、同窓会でも Zoom 勉強会の開催や個別指導も検討して行く必要がありそうです。

〔紙の文書を読む習慣〕

一方活字文化に慣れ親しんできた世代にとって、新聞・書籍や会報『波濤』などは印刷物(紙)を読むことにより理解します。最近では「電子書籍」により安価で素早く利用できるようです。メリット・デメリットもある様子ですが、これからの時代、紙面による文書から画面による文書に変わってゆくのでしょうか?時代の流れに合わせなければなりません。

第35回フェスタ・ヨコハマ

第35回フェスタ・ヨコハマは2024年8月31日(土)と9月1日(日)の2日間、神奈川同窓会も所属している神奈川サークル協議会の主催、神奈川学習センター後援で盛会に開催しました。

5年ぶりの2日間開催のフェスタ・ヨコハマとなりました。開催までの1週間は停滞・迷走する台風の影響で悪天候の日々が続き、開催も危ぶまれる状況でありましたが無事開催することができました。

【5年ぶりのホームカミングディ】

8月31日は神奈川同窓会の「第74回弘明寺サロン兼フェスタ・ヨコハマ映画鑑賞会」から開始。放送大学イメージキャラクターデザインを担当された、この史代さん原作の『この世界の片隅に』を上映しました。そのあと、新型コロナウイルスの影響で5年ぶりとなる「ホームカミングディ」を開催しました。雨の影響で止む無く欠席された方もいらっしゃいましたが、40名余りの同窓生の皆さまにお集まりいただきました。

母校との絆を深め旧交を温める良い機会として開催しておりますが、神奈川学習センターからは大谷センター長と清水事務長に出席していただき、会場の雰囲気も良く特に各テーブルに飾られた摘みたての野の花は趣があり参加された皆様の評判も上々でした。多くの同窓生が久しぶりに顔を合わせ、センター長、事務長を囲み茶話会は和やかな雰囲気ではありましたが有意義な交流ができたと思っております。



【岩永学長の記念講演会】

翌9月1日は10時から放送大学岩永学長をお迎えしての記念講演会からスタートしました。タイトルは「日本の生涯学習と放送大学～学習社会の現状と課題～」で私たちに身近な生涯学習が認知されるまでの経緯や放送大学が果たす役割等をユーモア

たっぷりに分かり易く解説されました。「日本において生涯学習ブームが3回あり第2期の新自由主義的生涯学習ブームに放送大学は開学しました。以来40年生涯学習の代表的機関として歩み続けてきました。現在は第3の生涯学習ブームに乗り遅れないようにDXやリカレント等の改革を推進しています。また放送大学学歌の歌詞の一節「知は力」に関連したフランシス・ベーコンが示した4つのイドラ(偶像・偏見)の詳細について」など説明されました。「生涯学習はそうしたイドラから自分自身を守る力(知力)を与える」ということが大変印象的でした。質疑応答の時間が取れず残念でしたが、最後に感謝の気持ちを表し参加者一同から花束を贈呈し記念講演会は閉講となりました。



【コロナ禍を乗り越え開催できた交流会】

2019年第33回フェスタ・ヨコハマで交流会を開催して以来新型コロナウイルスの拡大とともに開催を見送ってきましたが、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を機に開催について学習センターと協議を重ねてまいりました。今回のフェスタ・ヨコハマではアルコール飲料を自粛するという条件付きではありますが何とか開催にこぎ着けることが出来ました。130名余りの参加者が久々の飲食を伴う懇親に笑顔の溢れる良い交流会になったと思います。

フィナーレは神奈川同窓会が担当した福引大会でした。1等賞から7等賞まで17本の豪華賞品を準備しましたが、抽選券を引き当選番号を発表するたびに歓声が上がり、当選者が笑顔で賞品を受取りフェスタ・ヨコハマの締めくくりとして大変盛況でした。

コロナ禍が明け少しずつ以前の行事が復活してきて、学習センターが学生や同窓生の交流の拠点としてより一層利用できるように今後も努力して行きたいと思っております。(木下義則)

令和6年度第1学期学位記授与式

今年の夏は特別暑い夏でしたが9月下旬になると流石に朝夕は涼しくなり、2024(令和6)年度第1学期学位記授与式当日の9月29日は、秋の気配を感じず気持ち良い天候に恵まれました。

神奈川学習センターの今回の卒業生は144名(1学期の修了者なし)で、うち式典出席者は33名そして名誉学生対象者3名の紹介もありました。第1学期学位記授与式は神奈川学習センターで行われ、大谷所長から直接「卒業証書」が手渡されました。皆様清々しい顔で「卒業証書および学位記」を受け取っておられました。昨年度(2023年度第2学期)の学位記は、会場の関係もあり、郵送により本人に届けられ実感が伴わなかったと思います。

所長式辞で大谷所長からは、「大学は自己成長の場であり、基礎知識としてどの授業を取ればよいか調べます。放送大学は自由度が高いため[受け身]では前に進みません。皆様は学ぶ力がありますので、社会に対応して行くためバージョンアップして下さい」と挨拶がありました。

来賓祝辞は神奈川同窓会会長として私は「これまでは大学の卒業式は多くの場合人生でも最後の卒業式になる例が多く、[フロントエンド型]の体制でした。その後日本も[生涯学習]の体制に移行しつつあります。[生涯学習]とは、人の生涯と同じく、連続体としての教育であり“ゆりかごから墓場まで”学習できる体制です。このような時代背景から出発した放送大学は、通信制大学でCampusが全国に57箇所もあり、他の通信制大学とは大きく異なります。卒業以降も次のコースを目指し、センターに来てサークルやゼミに参加することを推奨します。ともに学びましょう！」と挨拶しました。(金田保男)



卒業生の言葉

放送大学で学びの楽しさを

今関 栄一



2020年、放送大学の「心理と教育コース」に入学しました。当時、世間ではリスキングや生涯学習が注目されており、私自身も「新しいことを始めたい」という強い気持ちを抱いていました。

コロナ禍で様々な活動が制限される中、今振り返ってみると、放送大学での学びはまさに絶好のタイミングでした。仕事に閉塞感を感じ、マンネリ化が進む中で、定年後のセカンドキャリアについて真剣に考えるようになり、50代からでも知識やスキルを身に着ければ、様々な可能性が広がると考えました。そのため、すぐに入学を決意し、行動に移しました。

「心理と教育コース」の授業はどれも興味深く、実生活や仕事に役立つ知識が多く学べました。特に「心理学実験」の面接授業では、様々な実験を通して人の内面の深さを知り、大きな学びとなりました。また、「心理学統計法」は計算が難しく理解に苦労しましたが、やりがいがありました。「生理心理学」では人体のメカニズムを詳細に学ぶ事ができ有意義な授業でした。

今回、放送大学の「心理と教育コース」を卒業できたことは、32年前の大学卒業時以上の達成感を味わい、自己肯定感が高まりました。コツコツと学び、試験を乗り越えて単位を重ねていくことは、自信と成長につながりました。年齢を重ねた今、学ぶことの大切さと新しい知識を得る喜びを実感し、充実した時間を過ごしています。

現在は放送大学で学んだ知識を基に、キャリアコンサルタントについてさらに学んでいます。資格も取得し、仕事や実生活で生かしています。また、4月からは「社会と産業コース」に再入学し、再び学びの楽しさと苦勞を感じています。

「心理と教育コース」を学んでいる間は横浜に住んでいましたが、現在は転勤により岩手県盛岡市に拠点を移し、岩手学習センターにお世話になっています。これまではコロナ禍の影響で他の学生との交流はほとんどありませんでしたが、今後はサークル活動や面接授業にも積極的に参加し、放送大学ライフを引き続き楽しんでいきたいと思っています。

卒業生の言葉

放送大学を卒業して今思うこと

與儀敬太郎



2024年9月29日「卒業証書・学位記」授与式が神奈川学習センターで挙行されました。日本社会では春だけが普通ですが、さすがに放送大学は進んでいると思います。

日本では社会に出ても、特に公務員では何期生という区別が定年まで存在するようです。日本社会でのこの悪しき慣習を無くす為に、放送大学ではこれをもっと進めて何時でも入学、単位取れ次第何月でも卒業可にしたらと思います。私も前学期で単位は取れていましたが、在学学期数が足りず今期卒業となりました。前学期は全科履修生在学中ながら修士選科生としても在学しています。

私は2度、井の中の蛙から大海を知りました。1度目は18歳で沖縄を出て「いすゞ自動車(株)川崎工場」で働き始めた時。毎日70台のトラックが生産され工場を出て行くので、沖縄の国際通りなら2～3日で埋まってしまおうし、全県道なら数年で埋め尽くされてしまうなど日本の広い事を知る(沖縄は全国土の0.6%)。2度目は79歳で退職し隠居した時。故郷沖縄の基地問題を知り、その関係のグループ勉強会に参加、自分の無知を知る(大海の水中生物が地表空間を知る)。グループの顧問は東京大学大学院の哲学科教授高橋哲也先生でメンバーは牧師、学校の先生、大学生等でした。

今私は沖縄問題だけではなく、世界の地域戦争や台風、豪雨、猛暑、飢餓等世界的な気候変動による被害について勉強しています。国内では地震、原発の後始末、政治腐敗、不正検査の企業倫理、民心の荒廃等もっと勉強してと世間に言いたいです。

動物は子供を生み育て、自ら獲物を捕れなくなった時死んでしまう。人間は生を受けて学習し、働いて子供を育て親の面倒(社会保障)を見て、やがて隠居し終わる。この三つのコホートが人類だと思ふ。限られた仕事中心の水中社会活動から、世界や宇宙も視られる空間社会への隠居が人間社会なのではと思います。

社会貢献活動報告

神奈川同窓会では社会貢献活動として「プラン」(Plan International Japan)と「あしなが育英会」の支援を行っておりますが、今年度より私が両方の担当となりました。そのため報告も一緒にさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

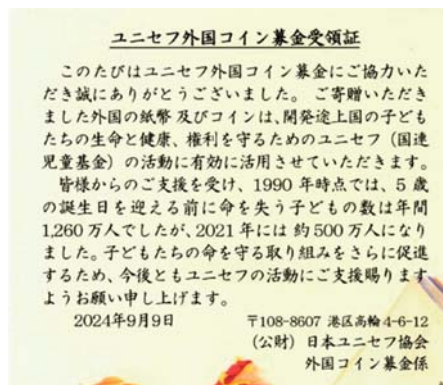
「プラン」関係では会員の皆様からご寄付をいただき、その中から2024年の前期分として2024年5月、プラン事務局に対し子どもたちへの支援として6名分180,000円を寄付させていただきました。

また、外貨コインと書き損じハガキの収集を叢書販売コーナーでも行い、こちらも多くの皆様のご協力をいただきました。

ご寄付をいただいた外貨コイン約1.7Kgは、公益財団法人日本ユニセフ協会へ送付いたしました。また書き損じハガキは、これまで同窓会役員が個人的に収集していたものを含め65枚となり、85円ハガキに交換いたしました。こちらの売却益は(プラン)の収入とさせていただきます。今後も外貨コインと書き損じハガキの収集を行う際には、波濤ネットや学習センター内の掲示等でお知らせいたしますのでご協力をお願いいたします。

「あしなが育英会」関係では、8月31日、9月1日に行われたフェスタ・ヨコハマで、2日間の叢書・バッジの販売を行い、多くの皆様にお買い上げいただきました。この販売手数料は、あしなが育英会に支援いたします。

(田代和嘉)



放送大学同窓会連合会 第2回南関東地区交流会神奈川で開催

11月9～10日の両日にわたり第2回南関東地区交流会が神奈川で開催されました。昨年、地区割が変更された結果、南関東地区は埼玉、千葉、東京学友、東京足立学友、東京多摩と神奈川の6同窓会で構成され、今年度は神奈川が幹事として交流会を主催しました。交流会の目的は、「共通テーマと各同窓会の課題などについて議論し、大学本部の動向や連合会や各地区の活動状況を報告し、意見交換や要望事項を討議する」というものです。

〈一日目「9日(土)」:交流会並びに懇親会〉

神奈川学習センター第3講義室において、神奈川の実行委員を含め28名が参加し交流会が開催されました。初めに当学習センター大谷所長の挨拶のあと、野崎放送大学附属図書館長より「放送大学の近況」特に学生の属性やニーズの変化に対応した授業内容の進化について説明がありました。

次に同窓会連合会の南谷会長より「連合会よりの連絡事項」として、①令和6年度学位記授与式並びに祝賀パーティの件 ②令和6年度ZOOM使用計画 ③助成金の注意事項等について説明がなされました。

続いて本題の情報交換会に移り、埼玉同窓会から順に最後の神奈川同窓会迄、夫々が抱える課題や改善に向けた取組につき熱のこもった報告と質疑が行われました。掻い摘んで紹介しますと、

I. 全ての同窓会の共通課題である①会員数の減少 ②悪化する財政事情 ③役員の担い手不足についてです。複数の同窓会において入会金の廃止や減額更には活動内容の工夫に取組まれており改善に向けた強い意志と情熱を感じさせられました。

II. 会員定着への取組では、東京学友同窓会の「親睦と共にアカデミックの部分を取り入れ卒業生の生涯学習支援を行う」に代表されるように、殆どの同窓会が工夫を凝らし研究発表の場を設け、又、サークルとの連携を深め活動に厚みを加えています。

III. 郵便料金値上げへの対応では、年会費値上げを回避する為、ペーパーレス化を具体的に推進している同窓会が大半を占めています。

神奈川同窓会の今後の運営を考える上で大変参

考となる情報交換会でした。

その後、横浜の中国料理店に場所を移し懇親会を開催。美味しい料理やお酒のお陰もあり参加者19名は大いに懇親の輪を広げることができました。



南関東地区交流会参加者

〈二日目「10日(日)」:横浜の歴史探訪〉

参加者はみなとみらい線日本大通り駅に集合。まずは横浜市開港記念会館を見学しそのあと横浜税関の資料展示室を見学。税関業務紹介ビデオを視聴したあと展示物を見て入り口で記念写真撮影です。その後は象の鼻パークに移動し横浜赤レンガ倉庫をバックに記念撮影。横浜三塔のもう一つの神奈川県庁は休日のため外観のみの見学でした。

電車の事故で遅れて参加の方も無事に合流し、参加者14名は本町一丁目から全員バスに乗車して港の見える丘公園に向け出発しました。到着後はベイブリッジをバックに記念撮影。イギリス館を見学したあとはバラ園を散策しその後山手ローズテラスでの昼食に舌鼓を打ちつつ歓談。昼食後は元町・中華街駅に向けて徒歩移動でした。途中横浜气象台や外国人墓地を見ながら「ヨコハマ」を満喫し駅到着後に解散しました。

多くの皆様のお陰で大変有意義な交流会となりました。(山崎正之)



横浜の歴史探訪参加者

第15回ミニサロン紙上発表

四国お遍路道中記

吉岡 淳



20歳ごろに雑誌で四国お遍路のことを知り、いつか行ってみたいなと思っていました。でも、なかなか実現せずに過ごしてきました。62歳で定年を迎えて平成26年4月からようやく四国歩き遍路を始める

ことができました。令和5年6月までに4回廻りましたが、途中でコロナ禍が始まってしまい4回目を回り終えるのに4年もかかってしまいました。令和6年3月末から5回目の歩き遍路を、徳島県内の23ヶ寺(阿波一国参り)を9日間かけて行ったので、最初の3日間を纏めました。

1日目(3月26日):新横浜を6時33分に出発しJRを乗り継いで午後1時前に第一番霊山寺に到着しました。ここでいくつかの遍路用品を買い揃え、納札も5回目からは白色から青色に変わりました(自己申告ですが)。お参りを済ませてから、その日と翌日の宿を電話で予約し、3日間の予定が立ってホッとしました。この日は第一番霊山寺から第五番地蔵寺までの13kmを歩く予定で、宿は第五番地蔵寺の門前にある「おんやど森本」にし、この宿に泊まったのは自分を含めて6人でした。その中の1人は香港のセブンイレブンの店長で長期の無給休暇を取って遍路に来ていました。荷物は次の宿に宅急便で送ると言っていたので、準備万端という感じでしたね。私なんか4日目以降の予定は未定で体力と天気次第の遍路旅です。

2日目(3月27日):第六番から第十一番までの6ヶ寺26kmの道のりでしたが夕方には第十一番藤井寺近くの宿「イレブン」に到着しました。ここは最近始めた素泊まりの宿で、部屋は2段ベッドのドミトリー形式です。同室の男性は第十番切幡寺からタクシーで来たと言っていました。「相部屋は嫌だ」「風呂がなくてシャワーだけなんて宿としておかしい」と宿のオーナーに文句を言って、私にも同意を求めてきましたが無視してその後は会話しませんでした。遍路旅は宿を見つけるのが大変なので泊まれるだけでもラッキーと思っています。ちなみに、この宿のオーナーは遍路仲間では有名なブログ「と歩き遍路の道しるべ」をやっている方です。

3日目(3月28日):難所と言われる「遍路ころがし」を朝7時から13km先の標高700mにある第十二番焼山寺に向けて歩きました。この道は、次の宿まで足が不調でも引き返すことが難しいです。標高40mの藤井寺本堂横から上がって行き、標高745mの一本杉に向かって山を登りました。それから集落のある標高450mまで山を下るのですが、登りっぱなしならまだしも、登り下りを繰り返すので結構キツイです。7時間かけて焼山寺に到着しました。5年前は6時間で行けたのに、72歳の爺さんにしてはまあ良い方でしょうか。お参りをしている間に雨が降り出してしまい、その後は山を下って宿に向かうだけでしたが、雨中の下り坂は滑りやすく怖かったです。午後4時に山中を9時間歩いて宿の「すだち庵」に到着しました。ところがこの宿には昨夜同室だった男性が部屋にいたのでこれにはびっくり。3日間の歩数計の合計は104,766歩でした。4日目の29日に「すだち庵」を出発し、あと6日間かけて歩き遍路を続けました。



第一番霊山寺門前で



すだち庵オーナーと朝の出発前に

【第73回弘明寺サロン 講演会】

インターネットセキュリティ

2024年2月10日に開催された「弘明寺サロン」は放送大学神奈川学習センターのパソコンサポート（K-サポート）で、私たち学生に初歩から手ほどきして下さっている鈴木康年氏を講師にお迎えした対面での講演会で、参加者は46名でした。

標題に向かうまでにインターネットの体系的知識の説明を受けましたが（初心者でもわかりやすく説明します、といううたい文句ではあったものの）、情報用語のカタカナ語にまず戸惑いました。固定電話や Fax 世代育ちの者には講演者が用意された62ページに及ぶ資料についていっただけでも大変な思いでしたが、同時にご用意された鈴木氏に頭が下がる思いをしました。

本題の「インターネットセキュリティ」では情報セキュリティ、サイバーセキュリティ、コンピューターウイルスなどの説明を受けました。日々遭遇する可能性のあるインターネット被害にフィッシング被害があります。実在のしかも自分が取引をしている銀行名を使って情報（ID、口座番号等）を盗むための偽メールが届きます。偽サイトに誘導する URL をクリックしないで URL の上にポインターを置くと送信元のアドレスを知ることが出来る、という鈴木さんからの情報はすぐに役に立つお得情報でした。

また、Windows のアップデートにおいて電源ボタンの上に黄色の○印が表示されていれば更新できることも今頃知った情報です。スパムメール対策として Outlook の例を見て、すぐ推奨どおり自分のパソコンの迷惑メール対策を実行に移しました。

最後に AI について実際のデモンストレーションで、数字の羅列から微分の回答を求めたり、描画を指示して表示させたり、その自然な回答能力、依頼の意図をも理解する能力、その完璧さに驚きましたが、同時に自分に届くスパムメールの文面の不自然さもそのうちAI利用でますます見分けがつかなくなるのでは、という危惧をも感じました。（万場由美子）



【第75回弘明寺サロン兼秋の行事】

「清澄白河駅周辺を巡る」開催報告

2024年10月18日（金）、第75回弘明寺サロン兼秋の行事として「清澄白河駅周辺を巡る」を開催しました。小雨予報の中、参加者は21名。

清澄白河駅到着後、先ず向かったのは霊巖寺。白河藩主・松平定信公の墓所を見学後、江戸六地藏の一つである地藏菩薩坐像の前で記念撮影。

続いて清澄庭園に入園。予約していた「涼亭」に入り早めの昼食タイム、明治座のお弁当「柚」を美味しく頂きました。昼食後は幹事より清澄庭園や涼亭の歴史、浮世絵に描かれた「万年橋」の説明があり、昔学んだ「奥の細道」（抜粋）をみんなで読み返す。当時の風景や旅立ちの様子を読むにつけ、奥の細道の起点に立ったとの思いを強くしました。最後は自己紹介。放送大学や所属サークルへの夫々の思いに聞き入る。昼過ぎ涼亭を出て池の周りを巡り記念撮影。



その後、芭蕉ゆかりの地に向け出発。途中左に隅田川を見ながら「万年橋」を渡り芭蕉庵跡に建つ「芭蕉稲荷神社」に着き先ずはお参り。“素敵な俳句が生まれますように！” 続いて「芭蕉庵史跡展望庭園」に行きました。芭蕉は、この辺りから船で隅田川を上り千住で船を降りて、“みちのく”に向けて旅立ったとされています。



最後の見学施設「芭蕉記念館」に到着し、芭蕉の直筆、古本等芭蕉ゆかりの資料を見学。見学後は記念館1階ロビーにて俳句脳を冷やした後、帰途に就きました。

（山崎 正之）

事務局だより

役員を募集します

神奈川同窓会では役員(准役員を含む)として一緒に活動していただける方を募集しています。

同窓会はボランティア団体ですので、できる時にできる範囲でお手伝いいただければ結構です。

会員相互の親睦、本会のさらなる活性化、また放送大学の発展のために、お力をお貸しいただきたくお願いいたします。役員になると新たな学びや経験ができます。ご協力いただける方は下記まで是非ご連絡をお願いいたします。

- ・神奈川同窓会事務局長：木下義則
- ・Tel：090-2222-7325
- ・E-mail：0025457082@campus.ouj.ac.jp



会員投稿も募集しています

神奈川同窓会会報『波濤』は年2回発行しており、「会員投稿」として皆様からの原稿を募集しています。『波濤』は会員の皆様の声を反映するものですので、是非ご寄稿いただきたくお願いいたします。

原稿内容は、放送大学との出会いや思い、近況報告、紀行文、地域活動、ボランティア活動、私の趣味・特技、私の好きな郷土料理などテーマはご自由です。800字程度にまとめていただければ結構です。また写真のみの投稿もお待ちしています。

ご連絡いただければ投稿資料をお送りしますのでよろしくお願いいたします。

連絡及び原稿送付先

- ・会報『波濤』編集委員長：佐藤 敬
- ・Tel：080-1010-5585
- ・E-mail：sts.sato-10167@nifty.com

《新入会者ご紹介》

2024年7月25日発行の『波濤』67号掲載以降の新入会員は下記の通り5名の方々です。心より歓迎申し上げます。(敬称略)

杉山有利夫	松岡 知昭	與儀敬太郎
中里 順也	谷口 麻紀	

《お願い》

住居移転のあった方や、Mailアドレスを変更された方は、次のいずれかの方法でご連絡をお願いいたします。



- ① 放送大学神奈川同窓会のホームページから。
<https://hato.net> の「入会案内」の「申し込みフォーム」から「住所変更」または「メールアドレス変更」と連絡事項に追記し送信。
- ② メールの方は下記アドレスで。
E-Mail：0025457082@campus.ouj.ac.jp
木下義則
- ③ 郵送の方は下記住所へ。
〒232-0061 横浜市南区大岡2丁目31-1
放送大学神奈川学習センター内
神奈川同窓会 木下義則

編集後記

2024年度のフェスタ・ヨコハマでは、神奈川同窓会が5年ぶりに「ホームカミングデー」を開催し、しばらくぶりに仲間の人たちと親交を深めることができました。

また秋の行事は、「清澄白河駅周辺を巡る」を実施しました。清澄庭園では予約してある「涼亭」でゆっくり昼食タイム。そのあと「芭蕉史跡展望庭園」や「芭蕉記念館」などを巡りました。

そして11月には神奈川同窓会が幹事となり第2回南関東地区交流会を開催。この68号にはこれらの対面行事の記事を掲載しました。(佐藤 敬)